

■東京大賞典（GI）アラカルト（過去全 69 回の分析）

- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 9 回（昭和 38 年）までは「秋の鞍競走」の名称で実施
- ※第 10 回（昭和 39 年）からは「東京大賞典」の名称で実施
- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 7 回（昭和 36 年）までは 2,600m で実施
- ※第 8 回（昭和 37 年）から第 34 回（昭和 63 年）までは 3,000m で実施
- ※第 35 回（平成元年）から第 43 回（平成 9 年）までは 2,800m で実施
- ※第 44 回（平成 10 年）からは 2,000m で実施
- ※第 41 回（平成 7 年）からは指定交流競走として実施
- ※第 57 回（平成 23 年）からは国際競走として実施
- ※記録は令和 6 年 12 月 15 日時点

■ 1 番人気馬のうち 7 割近くが 3 着以内を確保

単勝 1 番人気馬は 24 勝、2 着 15 回、3 着 8 回で、3 着内率が 68.1%、単勝 2 番人気馬は 14 勝、2 着 13 回、3 着 9 回で、3 着内率が 52.2%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 10 回、3 着 9 回で、3 着内率が 44.9%となっている。上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと見て良さそうだ。ちなみに、単勝 10 番人気以下で優勝を果たした馬はまだいない。

■ 近年は特に上位人気勢の健闘が目立つ

過去 69 回のうち 50 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 27 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 7 回ある。なお、第 53 回（平成 19 年）以降の過去 17 回中 12 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着、5 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着だ。

■ 5 歳以下の馬が優勢

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 17 勝、4 歳が 22 勝、5 歳が 18 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 4 勝となっている。5 歳以下の比較的若い世代が中心と言って良いだろう。

■ 4年連続勝利のオメガパフュームを含む5頭が“連覇”を達成

東京大賞典において2回以上の優勝経験がある馬は、第30回（昭和59年）と第33回（昭和62年）を制したテツノカチドキ、第50回（平成16年）と第51回（平成17年）を制したアジュディミツオー、第56回（平成22年）と第57回（平成23年）を制したスマートファルコン、第59回（平成25年）と第60回（平成26年）を制したホッコータルマエ、第64回（平成30年）、第65回（令和元年）、第66回（令和2年）、第67回（令和3年）を制したオメガパフューム、第68回（令和4年）と第69回（令和5年）を制したウシュバテソーロと、これまでに6頭いる。なお、アジュディミツオー、スマートファルコン、ホッコータルマエ、ウシュバテソーロは2年連続の、オメガパフュームは4年連続の優勝だ。

■ 牝馬は6勝、外国産馬は3勝

東京大賞典において優勝を果たした牝馬は、第1回（昭和30年）のミスアサヒロ、第13回（昭和42年）のヒガシジヨオー、第35回（平成元年）のロジータ、第38回（平成4年）のドラールオウカン、第39回（平成5年）のホワイトシルバー、第46回（平成12年）のファストフレンドと、これまでに6頭いる。また、外国産馬は第43回（平成9年）のトーヨーシートル、第49回（平成15年）のスターキングマン、第62回（平成28年）のアポロケンタッキーと、計3勝をマークしている。

■ ここ18年連続でJRA所属馬が勝利

指定交流競走となった第41回（平成7年）以降の過去29回に限ると、地方所属馬は4勝、2着7回、3着9回、JRA所属馬は25勝、2着22回、3着20回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第51回（平成17年）のアジュディミツオーが最後だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の武豊騎手が単独トップ。4勝の内田博幸騎手、M. デムーロ騎手が2位タイ、3勝の赤間清松騎手、佐々木竹見騎手、幸英明騎手が4位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の小暮嘉久調教師が単独トップ。4勝の大山末治調教師、安田翔伍調教師が2位タイ、3勝の岡部猛調教師、高木登調教師、出川己代造調教師が4位タイとなっている。

■ 1番、15番、16番の馬は未だ0～1勝どまり

枠番別勝利数を見ると、8枠（12勝）が単独トップ。6枠（11勝）が単独2位、2枠、3枠、4枠、5枠（各9勝）が3位タイとなっている。なお、もっとも勝利数が少ないのは1枠（3勝）だ。また、馬番別勝利数を見ると、5番（9勝）が単独トップ。2番（8勝）が単独2位、3番、9番、13番（各6勝）が3位タイである。ちなみに、未勝利の馬番は15番のみだが、1番と16番もそれぞれ1回ずつしか優勝例がない。

<伊吹雅也>